

### 9. 冠動脈疾患での虚血心筋領域に対する再灌流療法による脂肪酸摂取の改善

滝 淳一 中嶋 憲一 松成 一朗  
 村守 朗 利波 紀久 (金沢大・核)  
 分校 久志 (同・医療情報)  
 高田 重男 (同・一内)  
 久田 欣一 (北陸中央病院)

虚血性心疾患において虚血領域での安静時脂肪酸摂取の低下の存在を報告してきたが、今回再灌流療法後の脂肪酸摂取の改善について検討した。再灌流療法を施行された20例を対象とした。術前と術後(angioplasty(15例)2週後、バイパス術(5例)4週後)の同時期に施行された安静時<sup>123I</sup>-BMIPP像と<sup>201Tl</sup>運動負荷心筋シンチを用いて検討を行った。術前に<sup>201Tl</sup>負荷心筋シンチは全例異常を示したが、BMIPPは18例で異常を示した。このうち16例で<sup>201Tl</sup>負荷心筋シンチにて虚血の改善を示したがBMIPP集積改善はangioplasty 12例中7例、バイパス術5例中3例で得られた。以上より脂肪酸摂取異常は虚血改善早期では必ずしも改善されないことが示された。

### 10. <sup>99m</sup>TcO<sub>4</sub><sup>-</sup>, <sup>201Tl</sup>で腫瘍状の高集積を呈した adenomatous goiter の1例

木村 彰宏 今枝 功 藤原 寿照  
 外山 宏 古賀 佑彦 (藤田保衛大・放)  
 安野 泰史 仙田 宏平 竹内 昭  
 (同・衛生・診療放)  
 舟橋 啓臣 今井 常夫 田中 勇治  
 (名大・二外)  
 谷 能之 新美 岳 (大同病院・内)

adenomatous goiter は、シンチグラム上、多彩な集積パターンを呈することが知られている。われわれは形態診断(超音波など)で悪性が否定できず<sup>201Tl</sup>で洗い出しの遅延を認めた甲状腺腫瘍に<sup>99m</sup>TcO<sub>4</sub><sup>-</sup>甲状腺シンチグラフィで著明な集積亢進を認めた1例を経験した。

病理所見は陳旧性の出血、大小の濾胞、石灰化、乳頭状変化を伴った adenomatous goiter であった。<sup>99m</sup>TcO<sub>4</sub><sup>-</sup>は乳頭状上皮あるいは濾胞上皮に摂取されたと考えられた。甲状腺腫瘍に<sup>99m</sup>TcO<sub>4</sub><sup>-</sup>で高集積を認

めた時は文献的にも良性と考えられるが悪性の報告もあるため手術を考慮すべきと思われた。

### 11. 29年の経過をとった Sipple 症候群の1例——甲状腺髄様癌の術後に発生した副腎褐色細胞腫の1例——

多田 明 小林 昭彦 齊藤 泰雄  
 (国立金沢病院・放)  
 勝見 哲郎 村山 和夫 (同・泌)

29年前に甲状腺癌の手術を受け、最初の病理診断は Follicular carcinoma であったが11年後の頸部再発巣の手術では Medullary carcinoma に変更となった。平成7年の1月から左側腹部痛を訴え、CT検査で左の副腎腫瘍が発見された。<sup>131I</sup>-MIBG スキャンで明瞭な異常集積が認められ、手術にて褐色細胞腫と確定した。甲状腺癌の発生率は人口1,000人当たり1件で、甲状腺癌のうち髄様癌の割合が1.5%とすると、甲状腺髄様癌に伴う褐色細胞腫の発生率は人口100万人あたり50件となり、わが国では約600例と推測される。甲状腺髄様癌の患者ではCTや副腎髓質スキャンなど積極的な検索が必要だと考えた。

### 12. サルコイドーシスにおけるガリウムシンチグラフィの検討

今枝 功 石川恵美子 木村 彰宏  
 藤原 寿照 外山 宏 高橋 正樹  
 古賀 佑彦 (藤田保衛大・放)  
 仙田 宏平 竹内 昭 (同・衛生)

サルコイドーシスのガリウムシンチは、パンダサインやラムダサインの特異な集積を示し、さらに心臓などに多部位に集積を示すことも知られている。過去5年間の23人について、ガリウムシンチについて再検討した。出現率は、ラムダサイン52%、パンダサイン21%、両者合併4%、肺門70%、縦隔65%、肺野13%、涙腺100%、耳下腺21%、心臓22%、筋肉17%、その他リンパ節26%であった。心臓のSPECTは、検出率の上昇と部位の把握に有用であった。ラムダサインとパンダサインの出現率(特にパンダサイン)は、欧米に比べると低かった。